

科目名

美術 I

(2 単位)

1、教科書・副教材

高校美術 1 日文図書出版株式会社

2、科目の目標

美術の幅広い創作活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、完成を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前期	4月	オリエンテーション 高校美術について		13
	5月	素描		
	6月	デザインの世界 形や色や機能について		15
	7月	平面構成 単純化		15
	8月	学校文化祭に作品展示		
9月				
後期	10月	油彩画入門		18
	11月			
	12月	墨絵(絵手紙)		17
	1月	版画技法の研究		
	2月			
3月				

4、評価の方法

評価の観点 (1) 関心・意欲・態度 美術表現、鑑賞に関心を持っているか。表現意欲があり、主体的に制作に取り組む態度を持っているか。 (2) 芸術的な感受や表現の工夫。自然や物言の見方、またテーマの把握に対して、芸術的感性を働かせている、表現のために材料の選択や技法の用い方を工夫しているか。 (3) 創造的な技能。 作品を作り出すのに必要な材料の扱い方や表現技法・形式を身に付けているか。 (4) 鑑賞の能力。 作品を感受し理解しようとしているか。 作品について、特徴や自分の考えを述べることができるか。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

※ 課題の制作は継続して行い完成に向けて。欠席をしない様に注意しましょう。生徒の制作状況によって変更する場合があります。

科目名

美術Ⅱ

(2単位)

1、教科書・副教材

美術2 光村図書出版株式会社

2、科目の目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てると共に、感性を高め、美術文化について理解を深め、個性豊かな美術の能力を高める。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)	
前期	4月	オリエンテーション	美術Ⅱ学習内容の理解。教科書を見る、読む。課題制作の心得など。 ・美Ⅰ鉛筆デッサンを発展させ、木炭という描画材の表現の可能性を探る。 ・美Ⅰの油絵入門を発展させ、実体の存在と空間を意識し感じたままを表現させる。 ・制作品の出品準備。 (プレゼンテーション)		13
	5月	鑑賞 木炭デッサン			
	6月	静物画			15
	7月				
	8月	文化祭準備			15
9月					
後期	10月	デッサン 木彫	・卵のデッサンを習熟し、木彫をつくる。 ・テーマを決めて写真を撮る。 新聞を切り取り、コラージュする。 ・鑑賞。		18
	11月				
	12月				
	1月	映像メディア表現			17
	2月				
3月					

4、評価の方法

評価の観点 (1) 関心・意欲・態度 美術表現、鑑賞に関心を持っているか。表現意欲があり、主体的に制作に取り組む態度を持っているか。 (2) 芸術的な感受や表現の工夫 自然や物言の見方、またテーマの把握に対して、芸術的感受性を働かせている、表現のために材料の選択や技法の使い方を工夫しているか。 (3) 創造的な技能。 作品を作り出すのに必要な材料の扱い方や表現技法・形式を身に付けているか (4) 鑑賞の能力 作品を感受し理解しようとしているか。作品について、特徴や自分の考えを述べるができるか

5、学習にあたっての注意とアドバイス

※「美術ははじめにイメージがあり、表現することから始まります。表現の目的を知り、意欲を持ち作ることを楽しむ」態度を持つことが大切。また、美術に限らず様々な分野の「表現されたもの」に関心を持つこと。そして、創造に関わることで発想力や情操が育まれていきます。学習の計画は生徒の制作状況によって変更する場合があります。

科目名

美術Ⅲ

(2単位)

1、教科書・副教材

美術3 光村図書出版株式会社

2、科目の目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てると共に、感性を高め、美術文化について理解を深め、個性豊かな美術の能力を高める。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前期	4月	オリエンテーション 鑑賞	美術Ⅲ学習内容の理解。教科書を見る、読む。課題制作の心得など。	13
	5月	パステル素描 (練習)	・美Ⅱの木炭デッサンを発展させ、色彩を用いた素描に挑戦する。	
	6月	パステルによる 静物画	・上記練習を踏まえ静物画を描く。 実体の存在と空間を意識し感じたままを表現させる。	15
	7月			15
	8月	文化祭準備	制作品の出品準備。	
9月				
後期	10月	油彩	・本格的なキャンバスを用い静物画を描く。 ・透視図や空気遠近法などを知りそれを応用して描く。	18
	11月			
	12月			17
	1月	映像メディア表現	・テーマを決めて写真を撮る。 新聞を切り取り、コラージュする。 ・鑑賞。	
	2月			
3月				

4、評価の方法

評価の観点 (1) 関心・意欲・態度 美術表現、鑑賞に関心を持っているか。表現意欲があり、主体的に制作に取り組む態度を持っているか。 (2) 芸術的な感受や表現の工夫 自然や物言の見方、またテーマの把握に対して、芸術的感受性を働かせている、表現のために材料の選択や技法の使い方を工夫しているか。 (3) 創造的な技能。 作品を作り出すのに必要な材料の扱い方や表現技法・形式を身に付けているか (4) 鑑賞の能力 作品を感受し理解しようとしているか。作品について、特徴や自分の考えを述べることができるか

5、学習にあたっての注意とアドバイス

※「美術ははじめにイメージがあり、表現することから始まります。表現の目的を知り、意欲を持ち作ることを楽しむ」態度を持つことが大切。また、美術に限らず様々な分野の「表現されたもの」に関心を持つこと。そして、創造に関わることで発想力や情操が育まれていきます。学習の計画は生徒の制作状況によって変更する場合があります。

1、教科書・副教材

自主教材

2、科目の目標

美術の幅広い創作活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)	
前期	4月	オリエンテーション 高校美術について		13	
	5月	デザインの世界 形や色や機能について			
	6月	文化祭ポスター制作			15
	7月				
	8月	学校文化祭に作品展示			15
後期	9月				
	10月	油彩画入門		18	
	11月				
	12月	墨絵(絵手紙)			
	1月	版画技法の研究			17
2月					
3月					

4、評価の方法

評価の観点 (1) 関心・意欲・態度 美術表現、鑑賞に関心を持っているか。表現意欲があり、主体的に制作に取り組む態度を持っているか。 (2) 芸術的な感受や表現の工夫 自然や物言の見方、またテーマの把握に対して、芸術的感受性を働かせている、表現のために材料の選択や技法の使い方を工夫しているか。 (3) 創造的な技能。 作品を作り出すのに必要な材料の扱い方や表現技法・形式を身に付けているか (4) 鑑賞の能力 作品を感受し理解しようとしているか。作品について、特徴や自分の考えを述べるができるか

5、学習にあたっての注意とアドバイス

※ 課題の制作は継続して行い完成に向けて。欠席をしない様に注意しましょう。生徒の制作状況によって変更する場合があります。

科目名 音楽 I (2 単位)

1、教科書・副教材

音楽 I T u t t i (教育出版)

2、科目の目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)	
前期	4月	ソルフェージュ (1年通して) 歌唱・合唱		13	
	5月	器楽 鍵盤楽器 実習			・読譜の基礎力をつける(音高、16分音符までの音価、拍子、リズムの理解) ・「校歌」「世界にひとつだけの花」に慣れる
	6月				・3部合唱の楽曲を用い、ハーモニーを楽しみながら歌う ・自分のパート以外の旋律を意識しながら表現する技術を身につける
	7月				
	8月				・鍵盤楽器の仕組みと歴史 ・音階やコードについて学ぶ ・創作活動を加えながら、メロディー奏やコード奏による演奏をする
9月		15			
後期	10月	器楽 ギター実習		18	
	11月	和楽器(箏など)の演習鑑賞			・ギターの仕組みや弾き方、タブ譜の読み方を学ぶ ・簡単なメロディー譜を演奏する ・和楽器に触れ、西洋音楽との相違を学ぶ
	12月	歌曲の独唱			日本歌曲及び簡単なイタリア語・ドイツ語の歌曲をのびのびと歌う
	1月	交響曲、オペラなどの芸術作品鑑賞			・声や楽器の特性に気づく ・楽曲の歴史的背景を学ぶ
	2月	簡単な合唱や合奏			・1年を通して学んだことが発揮できるような楽曲を全員で演奏する
3月		17			

4、評価の方法

(1) 学習内容や活動に関心を持ち主体的に取り組んでいるか (2) 音楽を感じ取り、思いや意図を持って表現活動ができているか (3) 音楽の特徴や演奏の良さを解釈したり美しさを味わって鑑賞できているか
以上の点と、授業態度・意欲、出欠席の状況を踏まえ実技テストや授業で提出するプリントによって評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

※基礎的な学習が多いので、しっかり出席し基本を身に付けるよう心がける。個々の音楽経験や能力によって差が出てしまうこともあるが、まずは意欲・興味をもって取り組むことが大切である

科目名

音楽Ⅱ

(2単位)

1、教科書・副教材

音楽Ⅱ Tutti (教育出版)

2、科目の目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前期	4月	ソルフェージュ (1年通して)		13
	5月	歌唱・合唱		
	6月			
	7月			
	8月			
	9月	器楽 ギター実習		15
後期	10月	器楽 鍵盤楽器実習		18
	11月			
	12月			
	1月	鑑賞 世界の民族音楽や楽器、日本の伝統音楽などの鑑賞		
	2月			
	3月	創作 日本音階を使った創作		17

4、評価の方法

(1) 学習内容や活動に関心を持ち主体的に取り組んでいるか (2) 音楽を感じ取り、思いや意図を持って表現活動ができているか (3) 音楽の特徴や演奏の良さを解釈したり美しさを味わって鑑賞できているか
以上の点と、授業態度・意欲、出欠席の状況を踏まえ実技テストや授業で提出するプリントによって評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

※ しっかり出席をし、音楽Ⅰで扱った基礎も復習しながら、さらに高度なことに挑戦できるよう意欲的に取り組むこと。

科目名 音楽Ⅲ (2単位)

1、教科書・副教材

Joy of Music (教育芸術社)

2、科目の目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める

3、学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)
前期	4月	ソルフェージュ (1年通して)	・音楽Ⅰ,Ⅱに学んだソルフェージュの発展	13
	5月		・正しい発声法を身につけ、意欲的に歌う ・音程やリズム、フレーズなどを把握し、歌唱表現するための技術を学ぶ	
	6月	斉唱・合唱	・3部合唱の曲を用い、パートの融和とバランスに配慮し、調和の取れた現を心がける	15
	7月			
	8月			
9月	歌唱「初恋」など日本の芸術歌曲や外国語の歌曲	・外国語の歌曲を通して、発音やその国の文化を学習をする ・様々な表現の仕方を学び、表現上の効果を生かして歌う	15	
後期	10月	器楽 キーボード、ギター、ハンドベルなどによる全体合奏	・正しいリズム、コードを理解して演奏する ・楽器に応じた奏法の工夫を図り、パートごと協力して合奏の成立を目指す ・さまざまなジャンルの楽曲を体験する	18
	11月		・楽曲によって、鑑賞も取り入れ総合的に取り組む	
	12月	好きな曲を演奏しよう	自分で楽器や曲を選び、演奏する	17
	1月		・独奏、独唱、アンサンブルなどの形態も自分たちで決める	
	2月		・最後に発表会をし、お互いの演奏聴きあう	
3月				

4、評価の方法

(1)学習内容や活動に関心を持ち主体的に取り組んでいるか (2) 音楽を感じ取り、思いや意図を持って表現活動ができているか (3) 音楽の特徴や演奏の良さを解釈したり美しさを味わって鑑賞できているか 以上の点と、授業態度・意欲、出欠席の状況を踏まえ実技テストや授業で提出するプリントによって評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

※

意欲的に取り組むこと。合唱や合奏が増えてくるので、回りと協力して授業を進めていくよう心がけること。

1、教科書・副教材

学生のための音楽史と鑑賞 -改訂- 教育芸術社

2、科目の目標

様々な作品の鑑賞を通して、豊かな感性と音楽を愛好する心情、また幅広い音楽に興味・関心を持てるような耳を養うとともに、音楽文化を尊重する態度・批評する能力を育てる。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)	
前 期	4月	西洋音楽史概要	文化的構造を明確にした概要説明を行い、代表作の鑑賞を通して、時代様式を理解する。	13	
	5月				・中世の音楽からバロックの音楽
	6月			・古典派の音楽	15
	7月				
	8月				15
9月	・ロマン派の音楽				
後 期	10月	音楽と社会の関わり	・近現代の音楽	18	
	11月		身近な音楽と社会について ・郷土の音楽や様々な国の民族音		
	12月		・日本の伝統音楽 (日本音楽史概要や歌舞伎、能狂言など)	17	
	1月		・環境音、音楽と映像の関係		
	2月		テーマを決め、調査、考察、発表を行う。		
3月					

4、評価の方法

さまざまな国や形式の違う音楽作品に興味関心をもち、理解を深められているか(2)客観的に音楽の美しさを味わえているか(3)音楽に対する感情を、ふさわしい言葉で表現できているか
以上の点を踏まえ、授業態度及び鑑賞後の感想文、レポートが主な評価対象である。それらと筆記試験の結果を総合的に評価する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

※音楽鑑賞は聴こうと思う気持ちがなければ成り立たないものである。授業も意欲的に様々な音楽に興味をもって取り組むことが大切である。また、感想は1人1人違って当たり前なので、自分の感じたことを素直に表現していくことが大事である。

1、教科書・副教材

Music Navigation (音楽史・楽典・ノート) 教育出版

2、科目の目標

音楽に関する専門的な学習を通して、演奏における客観性と多様性を理解し、より豊かな表現力を伸ばすとともに、協調性や連帯感を養う。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前期	4月	ソルフェージュ (1年通して)	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な読譜力の復習 ・合唱や斉唱の楽しさを味わう ・曲種に応じた発声法の工夫を図る 	13
	5月	歌唱 斉唱と合唱		
	6月	コンコーネ・イタリア歌曲・季節の歌等		15
	7月	アンサンブル		<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱と器楽を組み合わせ、全員でアンサンブルを楽しむ ・様々な民族楽器を演奏することによって民族音楽の理解へつなげる ・自己表現力及び協調性を養う
	8月	「風になりたい」 「Ave maria」や ボディパーカッションなど		
9月				
後期	10月		<ul style="list-style-type: none"> ・独奏曲で個々の演奏技能を高める ・他パートをよく聴きながら、自分の音を全体に調和させる 	18
	11月	器楽 独奏・合奏 「ふるさと」「大きな古時計」 (ミュージックベル)		
	12月	「主よ、人の望みの喜びよ」 (キーボード) や 「G線上のアリア」(ギター) な		17
	1月			
	2月			
3月				

4、評価の方法

(1)さまざまな音楽作品について、客観性と多様性を理解できたか(2)さまざまな音楽活動に積極的・主体的に取り組めたか
以上の点を踏まえ、授業態度、出欠席を主な評価対象とし、数回の実技テストを総合的に

5、学習にあたっての注意とアドバイス

※基礎的な読譜力を身に付け、様々な楽曲に意欲的に取り組むこと。協力して合唱合奏の練習に参加すること

1、教科書・副教材

書 I (光村図書)

2、科目の目標

毛筆の基本的な用筆を習得する。書の古典を通して、伝統的な技術や格調を学び、時代や書き手によって異なる書体や書風の違いを理解する。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前期	4月	道具・基本用筆の学習	・筆の持ち方、姿勢の確認 ・楷書の基本用筆を半紙で練習する	13
	5月	楷書の学習	・九成宮醴泉銘の学習 ・孔子廟堂碑の学習 ・雁塔聖教序の学習 ・顔氏家廟碑の学習 ・牛橛造像記の学習 ・鄭義下碑の学習	
	6月			
	7月			
	8月	行書の学習	・行書の特徴と基本用筆を学ぶ ・蘭亭序を学ぶ ・風信帖を学ぶ	15
9月				
後期	10月	漢字の書 まとめ学習	・漢字の書のまとめ学習として、半切1/2サイズ紙に臨書作品を制作する。	18
	11月	漢字仮名交じりの書の学習	・漢字仮名交じりの書について学ぶ ・自分の好きな言葉を利用して作品を作る	
	12月			17
	1月	仮名の学習	・仮名の歴史と基本用筆を学ぶ ・いろはうたで平仮名の練習をする ・蓬莱切を臨書する	
	2月			
	3月			

4、評価の方法

テストはせず、单元ごとに提出する課題(作品)を授業態度、出席の状況を総合的に評価する

5、学習にあたっての注意とアドバイス

※

授業にまじめに出席し、手本を良く見て丁寧に書くこと 課題作品を必ず提出すること

科目名

書道Ⅱ

(2 単位)

1、教科書・副教材

書Ⅱ(教育出版)

2、科目の目標

- ・中国最古の文字と日本の仮名を学ぶことで書体の変遷の理解を深める
- ・作品制作の中で自己表現の難しさと楽しさを体験し、更に鑑賞眼を養う。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前期	4月	篆書の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・篆書の基本用筆と特徴を理解する ・甲骨文の学習 ・金文の学習 ・大篆の学習 ・小篆の学習 	13
	5月			
	6月	篆刻の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・篆刻について学ぶ ・姓名印を彫る ・印稿をつくる ・運刀、補刀、押印をする 	15
	7月			
	8月			
9月	隸書の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・隸書の基本用筆と特徴を理解する ・礼器碑の学習 ・曹全碑の学習 ・石門頌の学習 ・木簡の学習 	18	
後期	10月	草書の学習		<ul style="list-style-type: none"> ・草書成立の過程と基本用筆を学ぶ ・十七帖の学習 ・書譜の学習
	11月			
	12月	仮名の学習		<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名、変体仮名の練習をする ・古今集などの古筆を臨書する
1月	漢字仮名交じりの書の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字仮名交じりの書について学ぶ ・自分の好きな言葉を利用して作品を作る 		
2月				
3月				

4、評価の方法

テストはせず単元ごとに提出する課題(作品)と授業態度、出欠席の状況を総合的に評価する

5、学習にあたっての注意とアドバイス

※

意欲的に授業に参加し、課題作品は必ず提出すること

科目名 書道Ⅲ (2 単位)

1、教科書・副教材

書 Ⅲ(教育出版)

2、科目の目標

- ・さまざまな書体を学ぶ中で書体の変遷について理解をさらに深める。
- ・作品制作の中で自己表現の難しさと楽しさを体験し、更に鑑賞眼を養う。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容	考查範囲	時数(予定)
前期	4月	篆書の学習 隷書の学習	・篆書および隷書の基本用筆と特徴を理解する	13
	5月	草書の学習 行書の学習 楷書の学習	・草書および行書・楷書の基本用筆と特徴を理解する	
	6月	くれきの祭出品作品の制作	・各自作品の形式や内容を決め、半折(35×135cm大)で臨書作品制作をする。 ・表装、額入れの方法を学ぶ	15
	7月			
	8月			15
	9月	刻字の学習	・刻字について学ぶ ・刻する文字の選定 ・刻する ・彩色する	
後期	10月			18
	11月			
	12月			
	1月	書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ まとめ作品制作	・これまで学んできた筆法や書体を元に創作で作品を制作する。	17
	2月			
3月				

4、評価の方法

テストはせず单元ごとに提出する課題(作品)と授業態度、出欠席の状況を総合的に評価する

5、学習にあたっての注意とアドバイス

※

意欲的に授業に参加し、課題作品は必ず提出すること

1、教科書・副教材

なし

2、科目の目標

毛筆及び硬筆を用い、日常生活に役立つような実用的な書を学ぶ。

3、学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前期	4月	硬筆の学習 道具・基本用筆 の学習	・筆記用具の持ち方、姿勢の確認 ・基本的な点画を学ぶ ・ひらがな カタカナを学ぶ	13
	5月	毛筆の学習 実用書の学習	・氏名を毛筆で練習する ・のし袋の書き方について ・はがきの書き方について ・履歴書の書き方について	
	6月			
	7月	くれきの祭作品 出品の制作	・毛筆を使って団扇に文字を書く	15
	8月			
9月	刻字の学習	・篆刻について学ぶ ・姓名印を彫る ・印稿をつくる ・運刀、補刀、押印をする		
後期	10月			18
	11月	毛筆の学習	・創作カレンダーの作成	
	12月			17
	1月	実用書の学習	・絵手紙の書き方について学ぶ ・絵手紙の作品制作をする ・写経について学ぶ ・写経を試みる	
	2月	硬筆の学習	・ペン字のコツを学ぶ ・ペン字検定問題に挑戦する	
3月				

4、評価の方法

テストはせず、单元ごとに提出する課題（作品）を授業態度、出席の状況に合わせ総合的に評価する

5、学習にあたっての注意とアドバイス

※ 授業にまじめに出席し、課題作品を必ず提出すること